産業遺産学会 2025 年３月９日理事会 議事録

日時

2025 年３月９日（日）19:30〜21:30、Zoom

参加

清水、秋葉、尾﨑、後藤、小井土、菅野、鈴木、時里、中山、藤本、小西

（１）新会長、新監査役の紹介

・審議に先立って、清水新会長と小井土新監査役の就任挨拶があった。

審議事項

（２）2025 年度総会について

・５月 31 日（土）九州国際大学で開催。

・・総会の総会後のプログラムと６月１日（日）の産業遺産現地調査会については次回の理事会で決定する。

（３）分科会について

・活動休止状態の 13 分科会を入会申込書から削除する。

・鉄道分科会については小西が山田利明先生に相談してみなさまに報告する。

・入会申込書に希望する分科会名を記すことは規約および規定にその定めがない。

今後の対策として

・入会申込書の「専攻・関心のある分野」欄を見直し、情報交換の機会とする。

・従来は専門領域をもつ会員が個人運営する分科会であったが、その個人の都合で活動休止になったものがほとんど。

・中長期的には個人ではなく組織的な分科会をつくることが求められる。

・鈴木理事が鉱山金属分科会を協賛名に使っている研究組織に実情を照会する。

（４）理事組織の見直しと役員補欠選挙について

空席

財務１名、企画１名、編集２名、国際１名

見直しを検討

国際、研究、編集、組織

補欠選挙案

財務１人、企画２人、監査役１人

・「監査役１名」というのは、かねてより後藤から体調不良とのことで、「落ち着いた段階で交代の要請」があったことによる。

・かつては役割や役職者数を増やす傾向があり、業務分担や責任の所在が曖昧であった。
・かつては理事就任後に役割を割り振っていたが、業務が偏重したため「理事役員職務分掌業務規定」を制定して役割を明確にし、そのうえでそれぞれの理事に立候補する選挙に変更した。
・たとえば組織には総務との調整が必要な業務があり、こうした例を洗い出して整理する必要がある。
・コロナ以降、どの学会も会員の減少が顕著になった。半面、産業遺産への関心や認識度は高まりつつある。理事会はこのニーズに対応すべく、より集約した組織に再編して業務を見直す必要がある。たとえば、研究と編集を統合して編集体制を強化するなど、現在の分散した体制を見直してはどうか。
・広報にはメールサーバー管理という重要な任務があり、アクセス権には慎重さが求められる。一方、有事を想定したバックアップ体制を検討する必要がある。
・親学会の魅力を関連学会に的確に伝える必要がある。それには情報発信が重要で、親学会には全国の産業遺産情報が集まってくる機能をもたせなければならない。HP を見たら全国の産業遺産情報がわかるようにできないか。地方の情報を収集するために評議員に協力をいただくことも検討する必要がある。
・メルマガの情報発信頻度が高くなることが想定されるので、入手した情報はリンクを貼るなど作業の効率化と標準化が必要である。
・ローカル情報を収集してグローカル情報として発信する必要がある。
・情報収集ポスト（役職）を設ける必要がある。
・情報発信は中部産業遺産研究会と近畿産業考古学会が好例。
・近畿産業考古学会では「近畿」という地方の特性に特化した研究や見学会に特化することに着手した。
・全国大会などの機会を利用して地域の類似団体との協力体制を築くことも重要である。
・本組織は国際情報入手力に乏しい。国際情報が入手できるアンテナを上げておく必要があり、そうした人材の発掘が必要である。

（５）世界遺産「明治日本の産業革命遺産」登録 10 年行事
・小西が産業遺産情報センターに連携の可能性を照会する。
・2025 年度総会で概要を発表する。

（６）2025 年度全国大会会場について
・栃木県での開催を視野に、2025 年度総会で概要を発表する。
・全国大会はかつて、実行委員会を組織して開催していた。しかし、実行委員会を組織できない場合が多くなったため、企画の業務に編入された。実行委員会のありかたを再検討する必要がある。

（７）2027 年創立 50 周年記念行事について

・2025 年度総会で会員からのアイディア募集を呼びかける。

・40 周年では募金で事業費を賄おうとしたが、募金内容は改ざんされ、シリーズ講演会以外の収支報告はまったく出されておらず、最終的な収支報告もなされていない。その後事実を突き止めようとしたが、理事長と担当理事が資料を提出することはなかった。募金の謝礼として渡すと約束していた書籍もまったく渡されていなかった。この事実を踏まえると、50 周年での募金は見合わせざるを得ない。

・40 周年記念で実施したシリーズ講演会から産業考古学テキストの編集ができないか検討する。まず、小西が理事会に 40 周年の記録を報告する。

・産業遺産の国際的評価、理論や現状のいまと昔を比較できるテキスト作成ができないか。

・40 周年の産業遺産 100 選は不備な点が多過ぎたため、理事会がストップをかけ、会長預かりとしたが、会長が一方的に理事長預かりに変更した。不備な点とはたとえば、「ビューポイント」欄を設けたり、銘板を設置したりすると言いながら、管理者や所有者への確認がまったくなされていなかった点等である。

その他

（８）総会資料作成のおねがい

・４月中旬までに小西までお送りいただきたい。

（９）理事会話し合い内容の扱いについて

・理事会の会議内容を外部に漏洩することは一切やめていただきたい。企業でもこうした漏洩は許されていない。

2025 年 3 月 13 日

産業遺産学会理事長　小西伸彦